

Oncology News

早期乳がん／DCIS への寡分割照射による乳房硬結リスク(DBCG HYPO 試験)／JCO

Danish Breast Cancer Group (DBCG) では、1982 年以来、早期乳がんに対する放射線療法の標準レジメンは 50Gy/25 回である。今回、デンマーク・Aarhus University Hospital の Birgitte V. Offersen 氏は、リンパ節転移陰性乳がんまたは非浸潤性乳管がん(DCIS)に対する放射線療法において、40Gy/15 回の寡分割照射が標準の 50Gy/25 回に比べて 3 年の乳房硬結が増加しないかどうかを検討する DBCG HYPO 試験(無作為化第 III 相試験)を実施した。その結果、乳房硬結は増加せず、9 年局所領域再発リスクは低いことが示唆された。Journal of Clinical Oncology 誌オンライン版 2020 年 9 月 10 日号に掲載。

本試験の対象は、リンパ節転移陰性乳がんまたは DCIS で乳房温存手術を受けた 40 歳超の 1,882 例で、50Gy/25 回または 40Gy/15 回の放射線療法に無作為に割り付けた。主要評価項目は、局所領域再発に関して非劣性と仮定して、3 年の Grade2~3 の乳房硬結とした。

主な結果は以下のとおり。

- 2009~14 年に、8 施設から 1,854 例(50 Gy 群: 937 例、40 Gy 群: 917 例)が登録された(リンパ節転移陰性乳がん: 1,608 例、DCIS: 246 例)。
- 3 年乳房硬結率は、50Gy 群で 11.8% (95%CI: 9.7~14.1%)、40Gy 群で 9.0% (95%CI: 7.2~11.1%) で、硬結リスクは増加しなかった(リスク差: -2.7%、95%CI: -5.6~0.2%、 $p=0.07$)。
- 毛細血管拡張、色素脱失、瘢痕、乳房浮腫、痛みの発現率は低く、美容上のアウトカムと乳房外観における患者満足度はどちらの群も同様に高いか、40Gy 群で 50Gy 群より良かった。
- 9 年局所領域再発リスクは、50Gy 群で 3.3% (95%CI: 2.0~5.0%)、40Gy 群で 3.0% (95%CI: 1.9~4.5%) であった(リスク差: -0.3%、95%CI: -2.3~1.7%)。
- 9 年全生存率は、50Gy 群で 93.4% (95%CI: 91.1~95.1%)、40Gy 群で 93.4% (95%CI: 91.0~95.2%) と同等であった。
- 放射線治療による心臓および肺疾患はまれであり、分割療法による影響はなかった。

<関連文献>

Offersen BV, et al. J Clin Oncol. 2020 Sep 10. [Epub ahead of print]

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/32910709/>

当コンテンツは、株式会社ケアネットの監修により、がんに関連する重要論文を選別し、それらを簡潔に要約したニュースレターです。当社の見解を述べるものではなく、承認外使用を推奨するものではありません。内容の詳細については元文献・元ニュースを、製品に関する情報は各製品の最新の添付文書をご確認いただきますようお願いいたします。

尚、当コンテンツに掲載されている記事等に係る所有権、著作権その他一切の権利は、ニプロ株式会社、株式会社ケアネット、コンテンツ制作者等の著作権者が保有しています。